

# 卒業制作・論文作品集 8

畿央大学健康科学部  
人間環境デザイン学科

The 8th Graduation Works.  
Kio university  
department of Human Environmental Design.

## ご挨拶

畿央大学 学長

冬本 留子

今年も早や立春の声を聞くに当たり、本学人間環境デザイン学科の卒業研究の展示会場にその成果を見学する機会を得ました。

その時に当たり私は畿央大学創立に至る迄の自己の人生を省みることになりました。遙か90有余年以前の幼い頃、生れ故郷である農村の広々とつづく田園風景を眺めては、その朝夕の自然の変化に魅せられ、遠い異国に果てしない憧れを抱いたのであります。又自宅である村の木造住宅の中央には逞しい一本の太い柱を大黒柱と呼ばれ、日々白い布で磨き上げられて美しい光沢がありました。それは鏡の代わりになると祖母から教えられたことは忘れられないのであります。寝室であった和室の天井板は吉野杉の絵の様な木目がひろがっておりました。次の間から聞こえてくる単調な音。その部屋には、湯に浸っている白い蚕の繭が浮かび、それより出る細い糸をたぐりよせながら、織機の前椅子に座って、布を織っていた小柄な母の優しい姿が今も忘れられません。

私はこの度卒業研究発表会を見学することにより、胸一杯の感動の一時を過ごすことが出来ました。

感動とは、そして美しさとは、年令・性別・時代を問わず、人間の心に、生命の喜び尊さ、そして果てしない夢を与えてくれるのではないのでしょうか。

本学の建学の精神「徳・知・美」の一つにあたる「美をつくる」とはまさにその希いを表現するものであります。

今回の発表会には人間環境デザイン学科の真価を大いに発輝して頂くことになり誠に喜ばしく思います。

多くの本学学生たちに懇切なるご指導を頂いて参りました諸先生方に改めまして深く感謝申し上げ、発刊のご挨拶と致します。

## contents

ご挨拶 .....003

## 制作 .....007

### 学長賞

谷 玲佳 Sky walk under the highway .....008

### 優秀賞

酒井 翔悟  
松井 冴季 PIPOSO .....012

### 優秀賞

出口 鈴佳 雨の美術館 .....014

### 優秀賞

松尾 祐香里 りんくうくじら .....016

上田 彩乃 単身者のための共住住宅 ～オリンピック選手村とその後～ .....018

太田 奈見 きらめきときめき  
—KDK ファッショングランプリ コンテストへの挑戦— .....019

梶 直子 光が織りなすきらめき  
—KDK ファッショングランプリ コンテストへの挑戦— .....020

川村 祐太郎 日々綿三昧 ～紡・染・織・縫～ .....021

北林 将馬 C2 (二乗) ～カット×カフェ～ .....022

小崎 鉄也 和風空間 ～草木との出会い～ .....023

小藺 朝美 やさしいおいね .....024

坂本 在人 YOSHINO RIVER SIDE .....025

阪本 明宏  
宮原 真央 絹仕度 ～キセキの concerto ～ .....026

重森 文二 おいねいいね! – REBORN TRADITIONAL CRAFTING – .....027

下村 雄太 禁煙を促すデザイン .....028

高橋 大亮 Dome House ～中庭で過ごす住宅～ .....029

田中 智江 半分の家 - 森の中の都心住宅 - .....030

寺田 祐太 休符椅子～ SOUPIR .....031

徳澤 茉那美 モザイクアート ～私の宝物～ .....032

西本 崇司 FRP で製作したリビングチェア .....033

野口 祥未 遊 園 食 堂 ～遊園地の中のレストラン～ .....034

野村 卓矢 思い出の紫陽花「こころ、ときめく」  
— KDK ファッショングランプリへの挑戦— .....035

羽瀬 将幸 『学び舎』～能動的に学ぶための学校のかたち～ .....036

樋口 早紀 △であそぼ ～公園の遊具たち～ .....037

藤原 由規 J.C.M ～ James Cameron Museum ～ .....038

松田 妃代 さわる絵本～やってみよう!～ .....039

松野 吏紗 LED ～ Light Enjoy Display ～ .....040

三宅 勇輔 ロックソックモンキー .....041

安本 達矢 吉野の休日 .....042

山本 伊織 駅をスッキリさせる提案 .....043

制作風景 .....044

## 論文 .....045

石田 友恵  
倉本 香菜子 日射を遮るための効果的な素材に関する研究 .....046

植島 章仁  
中川 雅仁  
藤井 佳明 「冒険あそび場」の実践および  
「香芝市放課後子ども教室」に関する研究 .....048

大池 智貴  
川本 大貴  
中田 匠 熱中症対策としての男性の日傘使用に関する調査 .....050

鍵岡 正規  
中川 智之 サービス付き高齢者向け住宅に関する調査研究 .....052

川上 晃弥  
吉村 直樹 夏期をより快適に過ごす着衣スタイルの提案  
～ワイシャツとインナーシャツの組み合わせ～ .....054

川本 晃紀  
山下 誠人 コミュニティカフェの課題と利用者特性  
～大阪府内における事例調査～ .....056

國松 大志  
西川 夕稀 寒冷紗カーテンに関する研究 .....058

佐々木 康恵 大学 HP における情報伝達効果に関する研究  
～TOP ページにおける建造物を中心として～ .....060

元吉 理奈 絵本から学ぶ住環境教育 ～家庭科教育における実践～ .....062

講評会風景 .....064

展示風景 .....068

講評 .....069

制  
作



藤井ゼミ

谷 玲佳  
Reika Tani



## Sky walk under the highway

機能一辺倒の高架高速道路は醜い。

大阪市民の憩いの場である中ノ島は、公園として美しく整備されてきた。しかし、空を見上げると阪神高速がそれらを台無しにしている。この姿を、何とかしようと考えた。

〔Concept〕

機能一辺倒の高架高速道路は醜い。

大阪市民の憩いの場である中之島は、遊歩道ができ並木が植えられ、公園として美しく整備されてきた。しかし、空を見上げると阪神高速がそれらを台無しにしている。

この姿を何とかしようと考えた。

ただの彩色や取り付けた装飾では意味がない。端の美は常に構造の美である。修景をかねて高速から遊歩道を吊り下げ、その構造体で高速道路を美しく演出した。出来上がった「空飛ぶ遊歩道」は市民の憩いの場となり、川や島の景色を望む絶好のビューポイントになる。

〔現在の阪神高速〕



大阪市・神戸市および京都市に路線網を有する、総延長273kmの有料自動車専用道路。この阪神高速は、橋桁が鉄骨のまま見える。また、夜にはライトアップされるが美しい。

〔構造の美〕



水面に反射するアーチ、空に映るワイヤーの直線。構造の美で阪神高速を美しく表現する。また、大阪はガラス発祥の地。側面を着色されたポリカーボネート板で遮音と修景を考えた。

## 受賞のことば

中間発表後「これでは駄目だ」と思い急遽テーマを変更。不安と焦りで路頭に迷っていた私を助けてくれたのは藤井先生でした。しかし、先生はいつも「答え」をくれません。「自分で悩み考え結果を出していかなくてはならない」だからこそ自分が納得できる作品が出来ました。今回最優秀賞を頂き、大変嬉しく思います。私一人の力ではこの作品を完成出来ませんでした。多くのアドバイスを下さった藤井先生、相談にのってくれた友達、模型の手伝いをしてくれた後輩のみんな、本当に感謝しています。ありがとうございました。



ペットと一緒に空中散歩に行こう

### 緑の波紋道

両側に並ぶ植栽。緑に包まれながら歩く散歩道。  
中之島を目を向けると、綺麗なバラ園が見える。



### 水滴広場

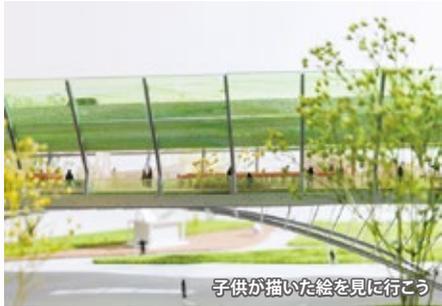
Skywalkの中心である広場。三角の形をしている広場の先端は展望スペースになっており、中之島をぐるりと見わたす事ができる。そして、先端部分はステージにもなり、天神橋をバックに音楽やダンスを披露する場となる。  
音楽をみんな一つになって楽しむ空間と変わる。



愛する二人で夜景デートへ

### ゆらめきギャラリー

中之島の情報や歴史を展示している。加えて、市民が撮った写真や子供達が描いた絵が飾っており、ぐるぐる回って見たくなる空間。



子供が描いた絵を見に行こう

### 水面のビアガーデン

美しい中之島の景色をバックに食事する。下にも客席があり、一番水面に近づける場所となっている。そこは、隠れ家のような空間でいつもと違う雰囲気を楽しむ事ができる。



女子会はいつもの隠れ家でね





三井田ゼミ

酒井 翔悟 松井 冴季  
Shogo Sakai Saki Matsui

## PIPOSO

テンセグリティーという構造を用いてドーム型のテントを制作した。First placeが住宅、Second placeが学校や職場だと考え、Third placeとなるようなものを考えた。趣味などの憩いの場所になる空間をイメージして制作した。







藤井ゼミ

## りんくうじら

計画地は泉佐野市のりんくうタウン。関西空港の隣の町ということでアジアの観光客を対象としたオペラハウスを作る。各国から客を集客することのできるオペラハウスを計画することで関空の活性化にもつながると考えた。泉州地区で多くいたくじらをモチーフにし、町が賑わうように願いをこめて作った。

松尾 祐香里  
Yukari Matsuo





藤井ゼミ

### 単身者のための共住住宅 ～オリンピック選手村とその後～

近年、単身者世帯が増え続けており「家族」の在り方が変わりつつある。「家族だから共に住む」から「共に住むから少し家族のようになる」へ単身者が集まって様々なレベルのコミュニティを分かち合う  
共に住まう共同住宅 = 共住住宅

上田 彩乃  
Ayano Ueda



村田ゼミ

### きらめきときめき —KDK ファッション グランプリコンテストへの挑戦—

今年の制作テーマである「ころこ、ときめく」を再現するために花とハートをメインとした、ときめき溢れるドレスを目指し、水色のサテンとオーガンジーを使用したきらびやかなドレスを制作しました。ハートは、私がイメージする「ときめき」であるため、目立つようにラインストーンでキラキラに装飾しました。また、ビーズで作ったお花に力を入れて丁寧に1つ1つつけました。



太田 奈見  
Nami Ota





村田ゼミ

梶 直子  
Naoko Kaji

### 光が織りなすきらめき

#### — KDK ファッショングランプリ コンテストへの挑戦 —

私はファッションが大好きでずっとドレスを作りたいと思っていました。自分の世界観をKDKファッショングランプリコンテストの課題である心ときめくに基づいて自分のときめきをドレスで表現し、受賞することを目的にしています。無事、西陣織工業組合賞を受賞することができました。



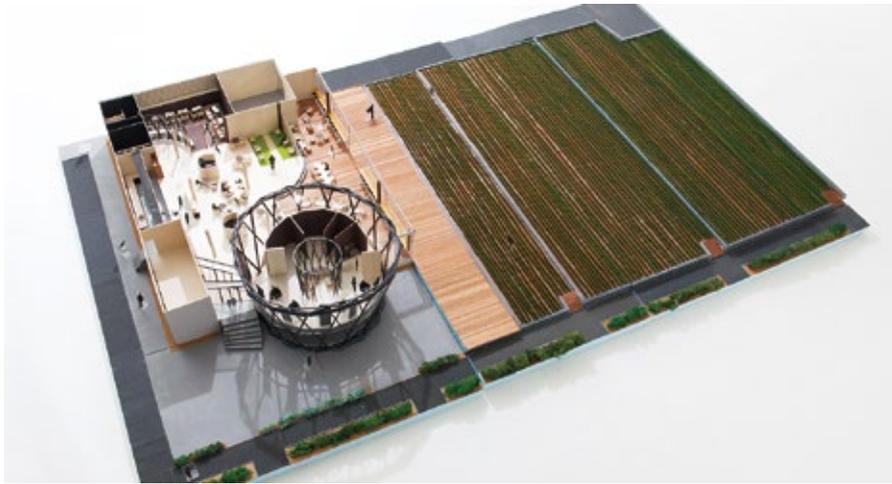
村田ゼミ

川村 祐太郎  
Yutaro Kawamura

### 日々綿三昧 ～紡・染・織・縫～

種から丁寧に育て、糸を丁寧に紡ぎ、色は丁寧に染め、丁寧に織り上げ、丁寧に縫いあげました。綿の風合い、雰囲気を残して肌ざわりの良さを生かすことを考え身にまとうことのできるコートを作りました。





加藤ゼミ

### C2 (二乗) ～カット×カフェ～

カフェ×美容室 いろいろな所で注目されていたが実現に至らないことも少なくない。  
原因として、髪の毛が原因だ。  
カフェと美容室の建物を別にすることで衛生的にクリアし、なおかつカフェと美容室の空間をひとつの空間のようにし、美容室のお客さまにもカフェのお客さまにも楽しんでいただく。

北林 将馬  
Shoma Kitabayashi



中山ゼミ

### 和風空間 ～草木との出会い～

3種の麻と3種の草木でできた和の空間。  
草木染めによって柔らかな光を演出し、心に安らぎを与える。  
照明と草木が一緒になったとき、また新たな姿が生まれる。



小崎 鉄也  
Tetsuya Kozaki





中山ゼミ

### やさしいおいね

プロジェクトゼミ活動の中で、山添村に伝統的に伝わるおいねについて、そのあたたかさや防寒具としての機能性の良さを自ら実感した。デザインを改良することにより、よりよいおいねとして広めていきたい。

小菌 朝美  
Asami Kozono



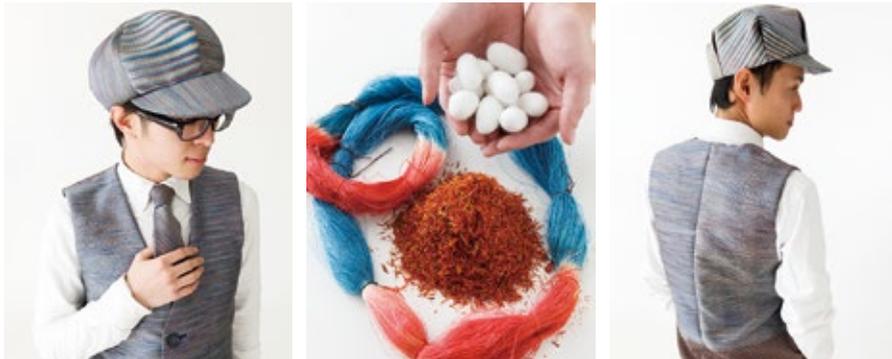
三井田ゼミ

### YOSHINO RIVER SIDE

街の喧騒から開放され、静かな自然のなかで何も考えずに、斜面に飛び出した建物を上り下りすることによって生まれる自然との距離を山や川の景色に、川の流るるの音に、澄んだ空気に触れて楽しむ。

坂本 在人  
Arito Sakamoto





村田ゼミ

阪本 明宏 宮原 真央  
Akihiro Sakamoto Mao Miyahara

### 絹仕度 ～キセキのconcerto～

とても小さな蚕の卵から生まれた制作物。自分たちで育てた蚕から糸を取り、染め、織り上げた。絹の光沢を生かした、手塩にかけた布地を用いて普段から使えるような洋装アイテムを3点、それぞれ2種類ずつ制作。



村田ゼミ

重森 文二  
Bunji Shigemori

### おいねいいね！ — REBORN TRADITIONAL CRAFTING —

伝統工芸「おいね」  
山添村で昭和50年頃まで使用されていた背負うタイプの防寒具。  
そんなおいねを現代に復活させる。  
中の綿に真綿を使用し、着物をリメイクしおいねを作った。



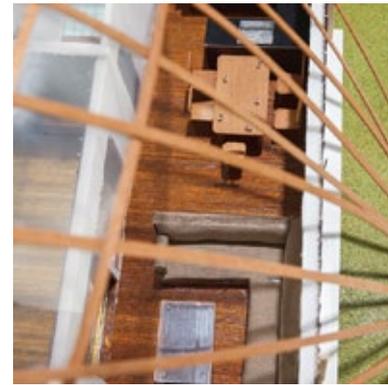


加藤ゼミ

### 禁煙を促すデザイン

近年世間に対する喫煙者への風当たりは強くなっている。喫煙者の肩身は狭くなる一方だ。そこで、タバコの警告文をわかりやすいイラストに変え、それに伴い、駅の喫煙所も喫煙意欲を低下させるような場所になるように提案する。現在の喫煙者をゆくゆくは非喫煙者になるようなデザインを目指す。

下村 雄太  
Yuta Shimomura



加藤ゼミ

### Dome House ～中庭で過ごす住宅～

住宅街の中に自分だけのアウトドア空間を作る。それは「室外」でも「室内」でもなく「内外」という新しい空間。リビングとして、中庭として、様々な可能性を秘めたこの空間は、ドーム屋根により天候を気にせず過ごせるだろう。中庭に生えた樹木が四季を告げる中でどんな暮らしをしてみようか…

高橋 大亮  
Daisuke Takahashi





藤井ゼミ

### 半分の家-森の中の都心住宅-

所狭しとひしめき合う、都心の建て売り住宅。  
床面積を我慢し隣人と庭を分かち合えば、目の前に森が現れる。  
きらめく森の帰り道と、木漏れ日の下での暮らし。  
居間に座り見上げると、そこには春風の揺れる梢が。

「狭いながらも豊かな我が家」を。

田中 智江  
Tomoe Tanaka



加藤ゼミ

### 休符椅子～SOUPIR

楽譜で「休止」を示す休符、「休息装置」である椅子。「休」と「休」との融合で、椅子にストーリー性を持たせた。横から見ると4分休符と8分休符が組み合わさったデザインになっており、積層による木目も楽しめる。

寺田 祐太  
Yuta Terada





加藤ゼミ

### モザイクアート ～私の宝物～

将来の夢のきっかけにもなり、小さい頃からお世話になっている私の大好きなおじいちゃんとおばあちゃん。二人へのプレゼントとして思い出の写真をモザイク絵にし、屏風を作りました。



徳澤 茉那美  
Manami Tokuzawa



中山ゼミ

### FRPで製作したリビングチェア

まずコンセプトはシンプルでカッコいい椅子。そしてモダンな空間に似合う椅子。ということで製作しました。  
FRPを材料に選んだ理由はこの卒業制作の目的とも被るのですが実際のもと同じ材料、工程で製作することができる点と木材や金属と違い機械を使用して加工する必要がないので最後まで自分の手で出来るという点、曲面を美しく表すことが出来るということでFRPしかないと思いました。



西本 崇司  
Takashi Nishimoto



加藤ゼミ

### 遊園食堂 ～遊園地の中のレストラン～

乗り物のテーブル席や壁にトリックアートといった園外にあるレストランとは違う、遊びに来ていて楽しいという気持ちを持ったまま食事をする事ができる遊園地の中にあるレストランの制作をしました。

野口 祥未  
Yoshimi Noguchi



村田ゼミ

### 思い出の紫陽花「こころ、ときめく」 — KDK ファッショングランプリへの挑戦 —

「こころ、ときめく」このテーマから連想したものは、幼少期に見た雨の日の紫陽花でした。その紫陽花をメインにドレスに思いを込めました。KDKモードショーに出展し、賞を受賞しました。その込めた思いを少しでも理解してもらえたら幸いです。



野村 卓矢  
Takuya Nomura



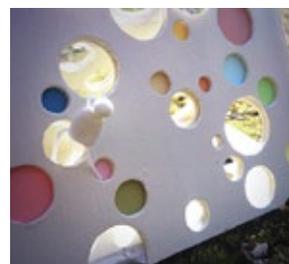
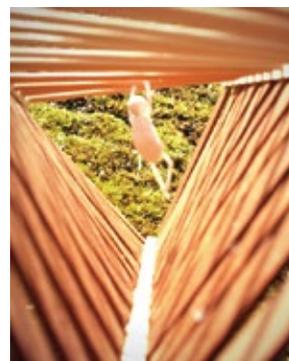


三井田ゼミ

『学び舎』～能動的に学ぶための学校のかたち～

近年の学力は低下傾向にある。ゆとり教育によるものだといわれていると思うが、実際のところ、子供たちの学外での授業時間の低下によるものがあげられる。つまり子供たちの勉強への意欲が失われつつある。そこで本計画は生徒の勉強意欲の向上を目指すため教科教室型を採用した。

羽瀬 将幸  
Masayuki Hase



藤井ゼミ

△であそぼ～公園の遊具たち～

世の中はさまざまなカタチであふれている  
地球は○、家は□  
だけど△は少ない  
カタチが△になるだけで  
目線が変わる  
あたらしい景色が見えてくる  
△で公園の遊具をつくる

樋口 早紀  
Saki Higuchi





藤井ゼミ

### J.C.M ～James Cameron Museum～

ジェームズ・キャメロン監督の作品をいくつかピックアップしたテーマパーク。スクリーンでしか味わえなかった映画の世界を立体化し、「観る」「聞く」だけでなく「立つ」「歩く」「触れる」ことができる。映画の中に飛び込み、主役となって作品の世界観やストーリーを味わえる空間が広がる。

藤原 由規  
Yoshinori Fujiwara



中山ゼミ

### さわる絵本～やってみよう!～

視覚障害児が日常生活動作を遊びながら学べるもの。また動作訓練前の概念形成にも利用できる玩具の制作。ただ立体になっていて「触ってみる」だけでなく、視覚障害児が「やってみる」ことの出来る玩具へ

松田 妃代  
Kiyo Matsuda





加藤ゼミ

### 『LED』~Light Enjoy Display~

照明でありながら、コーディネートディスプレイできる。照明の光が繊りなす美しさと、ファッションの美しさで「美をつくる」そういった作品にしました。



松野 吏紗  
Risa Matsuno



村田ゼミ

### ロツソクモンキー

畿央大学が位置する広陵町では地場産業として古くから靴下の製造が行われてきました。

靴下100年史という本の中にソックモンキーというおサルのおぬぐるみのページを見つけ、これを広陵町のマスコットキャラクター的な存在にしたいと考えました。

靴下のつま先を縫うときに出る廃材「ロツソ屑」の有効活用として、ロツソ屑を削り綿状にする機械を考案、ソックモンキーの中綿として利用でき、低コストでエコな機械を製作しました。



三宅 勇輔  
Yusuke Miyake



三井田ゼミ

### 吉野の休日

休日をこの場所で過ごす。  
多忙な生活では時間が早く感じるが、  
この空間では一日を長くゆっくりと味わうことができる。  
川とはまた一味違った吉野を楽しめる。

安本 達矢  
Tatsuya Yasumoto



中山ゼミ

### 駅をスッキリさせる提案

今ある駅はごちゃごちゃしている。ゴミ箱・時刻表・自動販売機などそれぞれが場所をとりまとまっていない。それをうまくひとつにまとめモニュメントとして誕生させた。組み合わせを変えることでどんな駅にでも対応し、使いやすいものとなった。

山本 伊織  
Iori Yamamoto





論文

# 日射を遮る効果的な素材に関する研究

東ゼミ



石田 友恵 Tomoe Ishida  
倉本 香菜子 Kanako Kuramoto

## 1. 研究目的

夏の室内における暑さの主な要因は日射熱であり、これを適切に制御する意義は大きい。節電意識の高まりとともに、緑のカーテンや様々な遮蔽素材を目にするようになった。また、人の温冷感には視覚などの五感も影響するといわれている。そこで、様々な素材について、日射遮蔽効果および視覚情報から得られる温冷感との両者から比較検討することとした。

## 2. 実空間における環境測定

### 【測定対象】

緑（朝顔・ゴーヤ）、よしず、寒冷紗（1重・3重）、クールブラインド（市販品）および比較条件としてブラインド（室内設置）とした。

### 【測定項目】

温度・相対湿度・放射温度（床上60cm）、窓表面温度（内・外：床上100cm）をサーモレコーダー（エスペックRS13、RT13）により5分間隔で自動計測した。

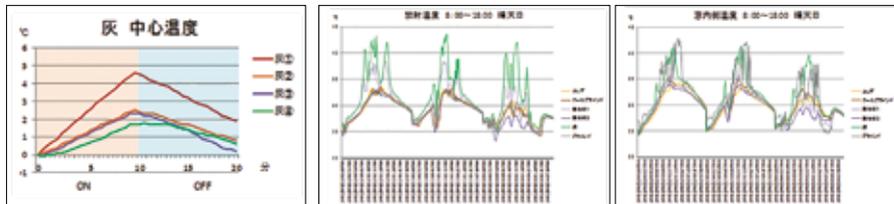


図1 寒冷紗の重ね合わせ枚数による模型内温度変化

### 【測定期間】

2013年8/9~27(屋根),  
9/13~9/25(窓面)

### 【設置場所】

本学食堂南向き窓および丸山繊維産業株式会社内倉庫・縫製室屋根（屋根面は寒冷紗のみ設置）

### 【結果】

予備実験（模型による測定）で、寒冷紗に重ね合わせの効果がみられたが（図1）、実空間環境測定時の窓内側表面温度と放射温度も同様に、3重は1重より温度上昇を抑制していた（図2）。一方、緑は枯れ始めたことで窓面緑被率が低下し、温度が高温で推移した。緑が日射遮蔽効果を発揮するためには十分な維持管理を行う必要がある。室内側設置のブラインドは室内への熱放射が大きい傾向があった。よしずは寒冷紗3重と同等の効果がみられた。屋根面の温度測定結果では、寒冷紗の重ね合わせの効果は、断熱材が設置されていない倉庫屋根面で特に顕著であった。

図2 実空間における窓内側温度・放射温度の経時変化（晴天日3日間:8:00~18:00）

## 3. 主観評価（被験者実験）

素材の種類による温冷感等の主観評価の違いを検討するため、窓面を背に後向き椅座（視覚を絶つ）、窓面を向いて前向き椅座（視覚を含む）の2条件を設定し、実験を行った。

### 【被験者】

20~24歳の女性11名、男性12名の計23名

### 【実験期間】

2013年9/5~9/8

時間帯は①10:00~12:30、  
②13:00~15:30とした。

### 【実験条件】

実空間における環境測定の対象から寒冷紗1重を除く5条件とし、被験者への提示順はランダムとした。実験室は2つのブースに分け、順応時間は10分間とした。順応後に評価ブースに移動し、15分間は窓面を背に後ろ向き椅座安静状態で温冷感等を評価、その後5分間は窓面に向かって椅座安静とし、温冷感および雰囲気評価（SD法27対）をしてもらった。全条件終了後には総合評価アンケートを行った。実験室はエアコンを使用せず、窓を一部開放した。被験者周囲温度は26.5℃~28℃で各実験中の変動は僅かであった。実験室の様子を図3、4に示す。



図3 順応スペース

図4 評価ブース

表1 日射遮蔽素材の総合評価

素材	視覚の有無	温度	湿度	放射	視覚	温度	湿度	放射	視覚
朝顔	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
ゴーヤ	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
よしず	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
寒冷紗	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
クールブラインド	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり
ブラインド	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり

## 【結果】

視覚の有無による温冷感評価を、後向きと前向きの被験者全員の平均値で比較すると、緑、寒冷紗、よしずは視覚を含む（前向き）ことで涼しい側の評価に移行した（図5）。雰囲気評価の平均値プロフィールをみると、全体的に緑の評価が高かった。よしずの評価も高いが、一方で閉鎖的、うっとうしいという印象がある。環境測定で温度上昇を抑制する効果の高かった寒冷紗3重は色彩（グレー）も影響し、ブラインドとともに殺風景、窮屈な印象であった（図6）。本研究において検討した素材の特徴を総合的に評価し、表1にまとめた。

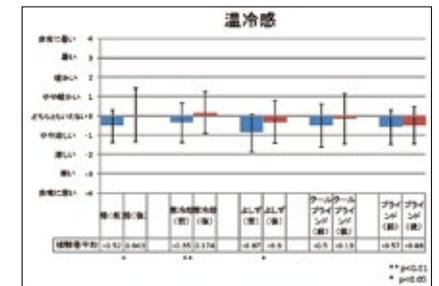


図5 視覚の有無による温冷感

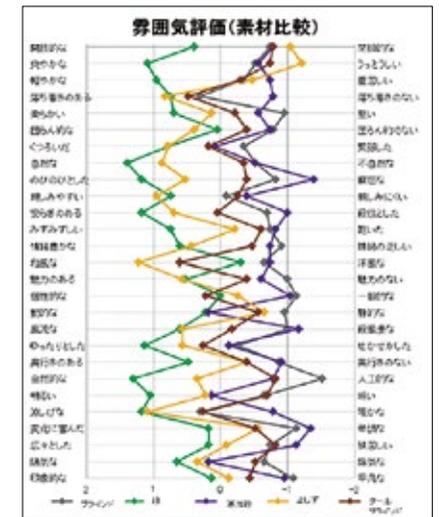


図6 雰囲気評価

謝辞:本研究にご協力頂いた丸山繊維産業株式会社様、実験にご協力頂いた被験者の皆様に御礼申し上げます。

# 「冒険あそび場」の実践および「香芝市放課後子ども教室」に関する研究

齋藤ゼミ



植島 章仁 (Akihito Ueshima) 中川 雅仁 (Masahito Nakagawa) 藤井 佳明 (Yoshiaki Fujii)

## I はじめに

3年間継続中の冒険あそび場(以下、遊び場)を企画、運営した。今年度より香芝市放課後子ども教室(以下、子ども教室)に認可していただいた。これを受け、先に実践されている5箇所の子どもの教室に学びたいと考える。

## II あそび場実践報告

子ども教室の認定を受け①毎回の行事内容を定める②参加者の登録を行うことが、昨年との相違点である。登録児童数は92名(男児46、女児46)で、幼児は保護者同伴とした。自由参加は従来どおりである。参加状況(4月～1月 表1)を示す。昨年度(205人)と比較して今年度(348人)と増加している。また、他学科の学生プレリーダー(表3)も毎回10人程度は参加してくれた。

## III 子ども教室ヒアリング調査の結果

国が2007年に創設した事業で、実践の有無は市町村の判断による。香芝市では、全小学校の内6校で実践され、遊び場は真

美ヶ丘東小学校の子ども教室として認められた。先達5校の活動内容等を表4にまとめた。週1回(曜日は異なる)放課後(14:30～17:30)小学校の空き教室等を利用して活動している。参加児童の募集や活動日の出欠の管理は教育委員会が行っている。児童の定員は基本的には20名、子ども教室指導者は各校3名程度配置されて子育て終了後の女性や定年退職後の男性が多い。活動場所は屋内が主である。

## IV アンケート調査結果

子ども教室、遊び場参加児童と保護者を対象としたアンケート調査を実施した。共に10月調査票を配布、11月～12月に回収した。子ども教室は、配布数104通、回収数57通(回収率54.8%)であり、遊び場は配布数38通、回収数29通(回収率76.3%)であった。

9月までの開催で楽しかった活動(表5、図1)は子ども教室では第一には体育館での遊び、次いで自由遊び、ペーパークラフト教室と続く。遊び場では流しそめん、水遊び、

表1 内容、参加人数

実施月	内容	今年度	昨年度
4月	体力測定	60人	70人
5月	芋植え	52人	30人
6月	水遊び	35人	15人
7月	流しそめん	47人	50人
8月	夏休み宿題教室	9人	実施なし
9月	水遊び	32人	25人
10月	スポーツ大会	35人	実施なし
11月	芋掘り焼き芋	47人	5人
12月	体力測定	14人	5人
1月	手作り限場け	17人	5人

表2 学年別人数

幼児	20人
1年生	20人
2年生	20人
3年生	12人
4年生	9人
5年生	5人
6年生	6人
合計	92人

表3 学生スタッフの登録人数

学年	デザイン	看護	栄養	教育
1回生	1人	2人	1人	5人
2回生	6人			2人
3回生	1人			
4回生	5人			4人

芋植えの順である。保護者にそれぞれの活動に期待することを尋ねた(図2)。「普段できない遊びや体験」を期待するという回答がもっとも多い。

子どもたちの遊びの様態について2008年度調査(3期生卒論、対象:真美ヶ丘東小3年生)と比較した(図3、図4 2013年度は子ども教室、遊び場の合計)。「屋内外どちらの遊びが好き」の質問では2008年度と比べると家の外が好きとの回答は、全体で6.5%の減で、特に男児が9.1%減っている。「屋内外どちらの遊びが多いか」の質問では2008年度に比べて屋外が多いとの回答は、全体で25%の減、特に女子は32.3%も減っていることが把握できた。

## V まとめ

子どもたちの屋外遊びの減少が指摘されて久しいが、本調査でも著しく減少していることが把握できた。交通事故や子どもを取り巻く事件の発生など、その理由は様々であるが、保護者はこの現象を好ましく感じてはいないと考える。遊び場への参加のきっかけ(表6)にあるように「思い切り遊びをしてほしい」と願っている保護者は多い。月に一度とはいえ、安心して屋外遊びのできる遊び場の果たす役割が大きいことを実感した。

表4 こども教室の活動内容等

小学校	活動内容	参加者数	実施教室
三和	音楽コース、吹き矢、グランドゴルフ	20人 (81人)	1階プレイルーム
調音	自由遊び、工作	27人 (77人)	1階プレイルーム
志都美	手話、楽器、フラダンス	33人 (92人)	3階図書室
真美ヶ丘西	工作、自由遊び	20人 (40人)	2階図工室
鎌田	サッカー、縄跳び、工作	4人 (29人)	1階図工室

表5 楽しかった遊び(子ども教室 児童)

	人数	割合
ペーパークラフト教室	22	38.6%
折り紙教室	14	24.6%
自由遊び	23	40.4%
親子コース	1	1.8%
パズルボックス作り	7	12.3%
バッグお手玉作り	2	3.5%
体育館でのあそび	29	50.9%
外遊び	17	29.8%

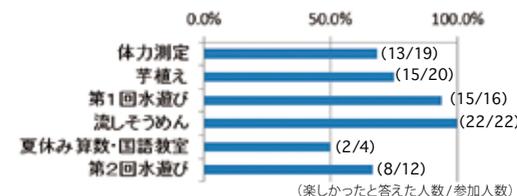


図1 月別評価(遊び場 児童)

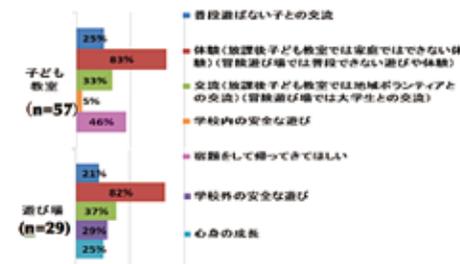


図2 期待していること(保護者複数回答)

表6 遊び場参加のきっかけ(保護者複数)

	人数	割合
友達に参加するから	5	11.5%
友達作りが難いから	2	4.7%
子どもが興味を持ったから	9	20.9%
保護者の方が興味あったから	9	20.9%
思いっきり外遊びをしてほしいから	18	41.9%



図3 屋内外どちらの遊びが好きか(児童)

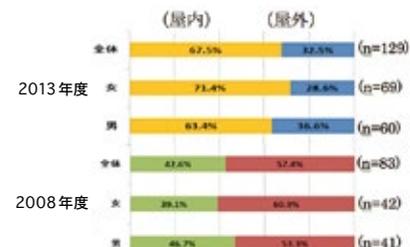


図4 屋内外どちらの遊びが多いか(児童)

thesis 論文

## 熱中症対策としての 男性の日傘使用に関する調査



東ゼミ

大池 智貴  
Tomoki Oike

川本 大貴  
Hiroki Kawamoto

中田 匠  
Takumi Nakata

### 1. 研究目的

近年の熱中症の増加を考えると、対策の重要性を感じる。本研究では、熱中症の意識や対策の実態を明らかにするとともに、熱中症弱者といわれる高齢者を対象とし、日常生活下における温熱環境の実態を把握する。さらに熱中症予防の視点から、女性が使用するイメージが強い日傘に着目し、意識調査および被験者実験により、男性の日傘使用の推進に向けた課題と防暑対策としての効果を明らかにすることを目的とする。

### 2. 熱中症・日傘の意識調査

#### ■調査概要

調査対象者を表1に示す。高齢者は奈良市シルバー人材センターに登録している高齢者に依頼した。アンケートは2012年度調査の高齢対象者も分析に加えた。調査は自記式質問紙法とし配布・回収を行った。高齢者のみ集合法により実施した。

【調査期間】 2013年7月下旬～8月下旬

【調査項目】 対象名の属性・日常生活習慣・熱中症の意識や対策・日傘の使用状況・男性の日傘使用に対する意識等。

表1 調査対象者の概要

2013年調査	男子学生	32名	82名
	女子学生	50名	
	中高年男性	22名	46名
	中高年女性	24名	
2012年調査	高齢者男性	12名	24名
	高齢者女性	12名	
	合計	15名	30名
合計		15名	184名

#### ■結果

熱中症対策として基本的な水分補給は8割以上が実践していたが、急に暑くなる日への注意は3割以下、部屋の温度確認は2割以下と実践率の低い対策も多いという実態が明らかとなった(図1)。

日傘を使用することに対する抵抗感は男性の6割があると回答した(図2)。

しかし、日傘使用を想定する男性の年代別の印象については、10～20代の男性が使用する場合には違和感を感じる人は半数以上いるが、年代が上がるにつれ違和感は減少していく傾向があった(図3)。

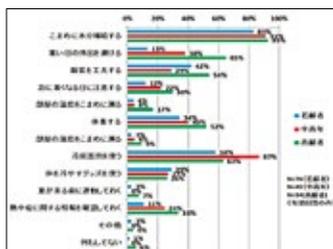


図1 熱中症対策として実践していること

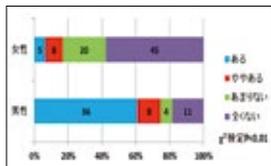


図2 日傘使用に対する抵抗感

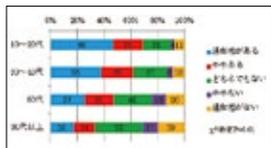


図3 日傘使用を想定する男性の年代別違和感

### 3. 高齢者の日常生活における温熱環境

#### ■調査概要

2013年度調査対象の高齢者にサモログ-RS13 (I&A<sup>®</sup>ツク) を携帯してもらい、2分間隔の人体周囲温湿度自動計測と同時に、生活行動記録表にエアコン使用や窓開放状況、温冷感や許容度等を記録してもらった。調査期間は2013年7月下旬～8月上旬の3日間である。

#### ■結果

生活行動記録をみると、全く冷房機器を使用していない被験者もあり、生活の個人差は大きかった。表2のWBGT値の分類に従い、測定期間中の検出割合を求め、図4に示す。男性A2,C4,女性C5は、ほとんどが警戒域以上の高温環境で生活していた。主観申告では暑さを許容する傾向がみられた。男女とも外出時のWBGTは高かったことから、防暑対策は重要であると考えられた。

### 4. 日傘の防暑効果の検証

#### ■実験概要

【測定項目】 人体周囲温湿度・放射温度・皮膚温度(6点):サモログ-RS13,RT13 (I&A<sup>®</sup>ツク) により30秒間隔で自動計測、舌下温・耳内温測定、主観申告・サモグラフィ撮影。

表2 WBGT値と生活行動の目安

温度基準 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安
危険 (31℃以上)	すべての生活活動における危険性
慎重警戒 (28～31℃)	中等度以上の生活活動における危険性
警戒 (25～28℃)	強い生活活動における危険性
注意 (25℃未満)	

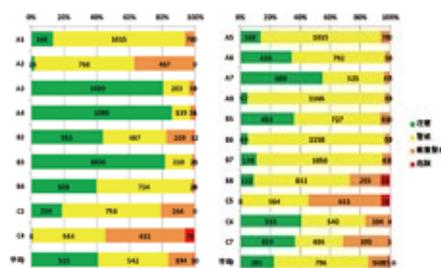


図4 WBGT値分類別の検出割合(男女別)

【被験者・実験期間】 健康な標準体型の20代男子大学生10名。2013年8月下旬～9月上旬、11:20～15:00に実施した。

【実験方法】 何もなし・日傘・帽子の3条件について、室内(27℃)で40分間の安静の後、屋外で20分、室内で20分の安静を繰り返した。条件順序はランダムに実施した。

#### ■結果

何もなしの条件では頭頂部が高温となり、帽子では頭部全体がそれより低く、日傘では上半身全体の温度上昇が抑制されていた(図5)。許容範囲の上限として「やや暖かい」申告時の平均皮膚温は日傘・帽子条件は約34℃で、何もなし条件とは約2℃の差があり、防暑効果が認められた(図6)。

### 5. まとめ

意識調査では男性は日傘使用に抵抗を感じていたが、使用している男性に対する印象は悪いわけではなかった。よって、まずは高齢男性の使用を推奨したい。

本研究が年代を超え「日傘男子」が受け入れられるきっかけになることを期待する。

謝辞: 本研究にご協力頂いた被験者の皆様、公益社団法人奈良市シルバー人材センターの皆様、共同研究としてご協力頂いた奈良女子大学 磯田憲生先生、久保博子先生、武庫川女子大学 佐々尚美先生に感謝申し上げます。

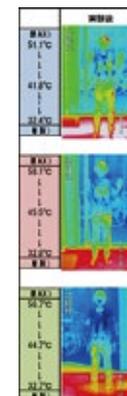


図5 サモグラフィ

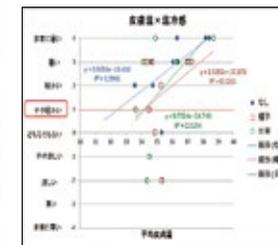


図6 平均皮膚温と温冷感

# サービス付き高齢者向け住宅に関する調査研究

齋藤ゼミ



鍵岡 正規 Masanori Kagioka  
中川 智之 Tomoyuki Nakagawa

## I はじめに

2011年サービス付き高齢者向け住宅(以下、サ高住)が新設された。国は、60万戸の建設目標を掲げ、建設費補助や税制上の優遇制度を設けたことにより短期間に増加している。昨年度のサ高住の卒論(9期生)では①家賃は周辺マンションの約2倍に設定される②共益費は住戸数と共用空間の面積に関わる③サービス費は定額払いと都度払いがあり、定額払いも設定金額の差が大きいことなどが把握できた。本年は、これを踏まえ利用者がサ高住を選ぶ際の指標を作ること、さらに国が提供する情報システムであるホームページ(以下、HP)改正案を提案する。

## II 研究方法

奈良県内のサ高住27件に郵送調査を依頼し、回答は7件であった(回収率29.1%)。この7件に訪問ヒアリング調査を実施した。

## III 調査報告

7事例の概要の一部を表1にまとめた。住

戸の設備内容や面積、共用空間の設備等いわゆるハード面はHP上に掲載され、かつ分かりやすいので割愛した。サービス面のHP上の記載がもっとも分かりにくい。まず、定額の支払いか、サービスを利用した都度の支払いか、その複合かの3種類に分類できる。定額払いの場合は、月額とともに、定額分のサービス内容は住宅により異なる。次いで職員配置に関しては、ホームヘルパー2級以上の有資格者を少なくとも日中1名は配置することが義務づけられているが、7事例ともにこの基準を上回ることはもちろん、すべての事例でHP上の記載よりも多人数が配置されていることが分かった。おそらく、HPへは実際の運営前に記載し、その時点で最低限確保できる職員数を掲載しているためではないかと推察する。また、看護師が、3事例で配置されているが、HP上では有資格者別の記載は求められていない。また、職員の配置場所についても記載は曖昧であり、サ高住専従か兼

務かの区別はされていない。HP上に併設施設の記載はあるが、系列施設の記載はない。ヒアリング調査では、サ高住に住み続けることが困難になった場合の異動先の系列施設を尋ねた。従って、事例B、Dで移動者なしとあるのは、系列施設がない訳ではない。

## IV まとめ

新たなHP改正案を提案することでまともとする。ここでは事例Dを取り上げ提案する(表2、表3)。赤字で記載している箇所が提案項目である。また、サ高住を選ぶポイントを身体状況別に図1,2にまとめた。自立度の高い方は周辺の環境や生活の自由度は重要であろう。それに対し要介護度の重い方は、サービス内容が重要であろうと考えられる。サ高住の職員体制や保有資格、具体的には看護師の有無は医療面のサポートに大きく影響を与える。どの事例も、身体状況は、要介護5でも介護保険の利用により居住の継続は可能であり、問題は、認知症の程度であるとのことであった。サ高住は、賃貸住宅ではあるが、高齢者が集まって生活する場でもあり、集住生活を送れない程度の認知症では居住の継続は困難である。ただ、家族のサポートの程度とも関連が強く、このグループでは家族の住まいからの近さが選択のポイントとなる。同じ意味で、サ高住での居住が困難になった場合、移動可能な系列施設の有無もポイントとなるだろう。

**表2: 生活支援サービスの内容詳細表**

月額費用	20,000円	定額の支払い
定額サービスの内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜間看護: 夜間4回、看護士に応じて</li> <li>食事時の対応: 飲食車の平配、付き添い等</li> <li>服薬確認: 自己管理出来ない場合、看護師等が管理</li> <li>車庫利用: 車庫 集合バスに設置</li> <li>ゴミ収集: 高2階部屋の軒に出して置いて収集</li> <li>障害介護: 夜間、自中の緊急時の後援介助</li> <li>入浴見守り: 個室専らのお見守り(5分おき)</li> <li>移動: 食事の際の食卓までの送迎</li> <li>シーツ交換: リース利用の方は週1回実施</li> <li>洗濯: 電球、電器の交換、年2回エアコンの掃除</li> <li>レクリエーション: 体操、軽率、レクリエーション</li> </ul>	<p>その他別途料金のサービス</p> <p>安心のバックホウは入居者の要望に応じてのプラン作成が可能、および9万円相当のサービス内容を2万円の料金、月額費用の2万円とは別注!</p>

**表3: 状況把握及び生活相談サービスの内**

提供形態	サービス付き高齢者向け住宅提供事業者が自ら提供する																
常駐する職員	自施設の専任職員																
職員の勤務形態	併設事業所との専任(タイサービス)																
サービスを提供するために常駐する専任職員	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">日中に在任している職員</th> <th colspan="2">夜間に在任している職員</th> </tr> <tr> <td>職種</td> <td>人数</td> <td>職種</td> <td>人数</td> </tr> <tr> <td>住宅の専任職員</td> <td>介護士3名 3~4名</td> <td>介護士</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>併設施設の職員</td> <td>看護師 上記内1名</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	日中に在任している職員		夜間に在任している職員		職種	人数	職種	人数	住宅の専任職員	介護士3名 3~4名	介護士	2名	併設施設の職員	看護師 上記内1名		
	日中に在任している職員		夜間に在任している職員														
	職種	人数	職種	人数													
	住宅の専任職員	介護士3名 3~4名	介護士	2名													
併設施設の職員	看護師 上記内1名																
提供方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>提供日: 255日対応</li> <li>提供時間: 24時間常駐</li> <li>専任職員に在任している人数: 日中3名、夜間2名</li> </ul>																

※HPの情報では日中体制の情報が日中1人・夜間1人となっているがアンケートやヒアリング調査では施設長を含め3~4人が日中は常駐しており、内1人は看護師であること・夜間は2人が常駐していることが分かったため、人数の情報を変更している。また例に挙げた事例Dはサ高住の専任の職員が十分な併設施設の職員は割愛している。

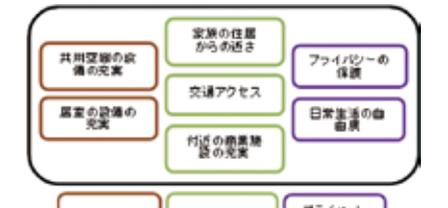


図1: 自立度の高い方の重要ポイント



図2: 要介護・重度の方の重要ポイント

**表1: 調査対象住宅の概要 ※1※2**

事例	事業主体	全戸数	サービス費支払い方法	料金	定額分のサービス		人員体制 日中/夜間	看護師の有無	勤務形態	特設場所
					内容	人数				
A	株式会社	30	定額	1,000円	アクティビティサービス企画、服薬の管理、ゴミだし	1人	1人	×	専従	事務室
B	株式会社	18	定額	25,000円	身体介護、ベッドメイキング、日常清掃、健康管理、取次、安全確認、生活相談、緊急通報システム	1人	3人	×	兼業	通所介護事業所
C	株式会社	49	都度		詳細は別項目にて記述※3	3人	1人	○	専従	事務室
D	株式会社	33	定額	20,000円	服薬の管理、その他 ケア時間外は全て(マンション内)別館※3	4人	2人	○	専従	事務室
E	株式会社	9	複合	5,250円	アクティビティサービス企画、洗濯の代理、ゴミだし、その他	1人	1人	×	専従	日中(事務室) 夜間(1階小規模多機能)
F	株式会社	48	複合	20,000円	アクティビティサービス企画、服薬の管理、ゴミだし、その他 食卓までの介助)	1人	1人	×	専従	事務室
G	医療法人	41	定額	6,224円 ~ 26,340円	アクティビティサービス企画、服薬の管理、入浴の介助、洗濯の代理、ゴミだし、通院への付添(協力医療機関のみ)	3人	1人	○	兼業	事務室

※1 ホームページには掲載されていない項目 ※2 ホームページでは情報が不足している項目  
※3 食事の提供、入浴、排せつ、食事等の介護、調理、洗濯、清掃等の家事を利用した際の都度払い

1ヶ月で最低限必要な金額 ※4	移動先の系列施設
約 97000 円	グループホーム
約 109000 円	移動者なし
約 186650 円	病院、特養、GH、老健、ケアハウス、介護付き有料老人ホーム、小規模多機能
約 145000 円	移動者なし
約 99250 円	グループホーム、小規模多機能型住宅
約 126000 円	住宅型有料老人ホーム
約 146224 円	住宅型有料老人ホーム、小規模多機能

※4 家賃+共益費+サービス費+食費の最低金額の合計  
※5 ただし、前金として3,000,000円が必要

thesis 論文

## 夏期をより快適に過ごす着衣スタイルの提案 ～ワイシャツとインナーシャツの組み合わせ～

東ゼミ



川上 晃弥

Koya Kawakami



吉村 直樹

Naoki Yoshimura

### 《研究背景と目的》

中・高校生の頃から制服としてワイシャツを着る機会が多く、特に真夏に活動するときには不快感があった。近年、着衣材料では新素材が多く開発されている。そこで、インナーシャツの選定によって、夏期のワイシャツ着用時の快適性を向上させることができるかを検証することとした。

### 《素材の選定・着用条件》

ワイシャツ(綿55%、ポリエステル45%)に、インナーシャツとして①綿100%、②ポリエステル100%、③新素材(ポリエステル87%・ポリウレタン13%)、④着用なしの4パターンの組み合わせとした。

### 《被験者概要》

温冷感には、性差・年齢差が認められると報告されているため、本実験では、青年男性のみを被験者に採用し、着衣条件による差を検討した。

被験者は、健康でほぼ標準体型の大学生10名(BMI平均値22)とした。

### 《実験期間・実験条件》

平成25年8月9日、12日、14日、26日の計4日間 全て晴天日とした。12時～16

時15分の合計4時間15分。(9日のみ11時～15時15分)

実験のタイムスケジュールを図1に示す。前室(エアコン27℃)にて椅座安静(15分)の後、校舎内を歩行(15分)、校舎内で椅座安静(15分)、エアコン27℃環境で椅座安静(15分)計60分間の実験を、着衣条件を変えて4セット行った。着用順はランダムに設定した。

### 《測定項目》

皮膚温(胸・腕・大腿・下腿)、衣類内湿度、耳内温、舌下温、着衣重量、サーモグラフィ、主観評価(温冷感・快適感・乾湿感・疲労感・気温評価・口渴感・許容度・発汗度)

皮膚温・衣類内湿度はサーモレコーダー(エスペックRT13,RS13)により1分間隔で自動計測とした。

条件	時間	着用条件						
		皮膚温	衣類内湿度	主観評価	サーモグラフィ	耳内温	舌下温	着衣重量
前室	15分	○	○	○	○	○	○	○
歩行	0分	○	○	○	○	○	○	○
	5分	○	○	○	○	○	○	○
	10分	○	○	○	○	○	○	○
	15分	○	○	○	○	○	○	○
休憩	20分	○	○	○	○	○	○	○
	25分	○	○	○	○	○	○	○
	30分	○	○	○	○	○	○	○
安静	35分	○	○	○	○	○	○	○
	40分	○	○	○	○	○	○	○
	45分	○	○	○	○	○	○	○

図1 タイムスケジュール

### 《実験結果》

#### ・主観評価結果

温冷感、快適感、乾湿感申告は、着用条件によらず歩行時にはマイナス側に移行し、休憩時、安静時に徐々にプラス側に移行する傾向が共通して見られた。温冷感と快適感の相関性は、休憩時において最も高かった( $R^2 = 0.58$ )。発汗度申告は、実験時の環境温度による差が顕著であった。

#### ・休憩時(エアコン未使用環境)の衣類内湿度と快適感(図2)

横軸に衣類内湿度、縦軸に快適感申告をとり、図中●は29℃以上の暑い環境時、●は27℃以下の涼しい環境時の結果を示している。休憩時には新素材のみ80%以上の高湿となった暑い環境下における結果に快適側の評価がある。中立申告±0と近似線の交点を比較すると、新素材は約80%で、他の条件と10%～15%の差があった。新素材は高湿度であっても不快感が少ない傾向がみられた。

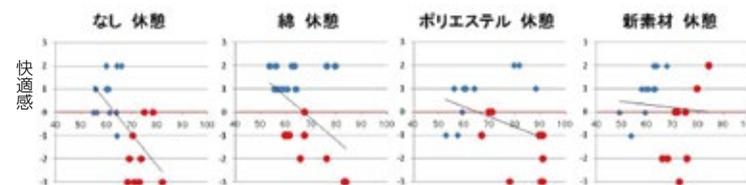


図2 休憩時における衣類内湿度と快適感

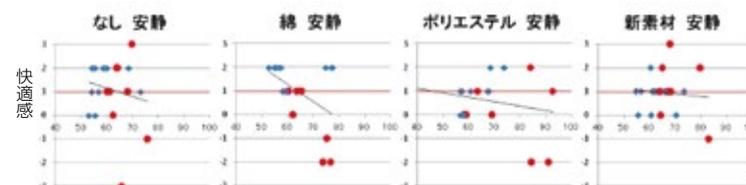


図3 安静時における衣類内湿度と快適感

#### ・安静時(エアコン27℃設定)の衣類内湿度と快適感(図3)

エアコン使用環境下では、気温は低いため、快適性には発汗に伴う着衣のぬれが影響すると考えられる。綿は暑い環境時(●)に快適側の評価が少ないのは、吸湿・吸汗性は良いが速乾性に欠けるためと推察された。着用前後の重量変化も綿が最大であった。一方、新素材は圧倒的に快適側(+1以上)の評価が多い。やや快適と感じる+1と近似線との交点の湿度を比較すると、ポリエステルが50%で他の条件と約15%の差があり、低湿度でも快適性が低い。繊維に吸湿性がないための蒸れ感によると推察された。

### 《まとめ》

本実験の結果、夏期におけるインナーシャツの選定条件として、涼しく発汗が少ない環境下では綿の着用が、暑く発汗が認められる環境下では新素材の着用が快適性を向上させると考えられた。

謝辞:実験にご協力頂いた被験者の皆様に感謝致します。

# コミュニティカフェの課題と利用者特性 ～大阪府内における事例調査～

齋藤ゼミ



川本 晃紀 Koki Kawamoto  
山下 誠人 Makoto Yamashita

## I はじめに

コミュニティカフェとは、「たまり場」「居場所」の総称であり、高齢者に出会いや会話の場を提供する交流拠点である。近年、増えつつあるが、その実態は十分に把握されていない。私たちは、コミュニティカフェの認知を広げ、それを目的として本研究に取り組んだ。

## II 研究方法

大阪府内の3つのコミュニティカフェを対象に事業者と利用者にヒアリング調査を実施した。利用者の調査は、各事業所に3～4日間かけた。

## III 考察

『エフエーさろん(以下、エフエー)』はサービス等を実施しているNPO法人が商店街の空き店舗を購入し開設した。『街角広場(以下、街角)』は「歩いて暮らせる町づくり」事業<sup>1)</sup>の中の「住民による近隣センターの空き店舗の

利用」の社会実験として始まり6年後に住民たちが引き継いでいる。よって当初負担はなく、社会実験中は家賃、光熱水費も行政が負担したが、現在は実行委員会が負担している。

『コラボ交流カフェ(以下、コラボ)』は千里中央駅前の公共的複合施設の建設に際し、住民による実行委員会が関わり、交流の場として提案され施設内の一角に実現した。『街角』をモデルとしている。当初負担も現在の家賃等も発生していない。運営は3事業所ともに住民による無償ボランティアが担い1日あたり2～3人ずつのローテーションで回している。開設の新しい『コラボ』は平均年齢も若く豊中市だけでなく近隣の市から希望者が集まったそうだが『エフエー』『街角』ではボランティアの高齢化が課題であるという。3事業所ともに100円～200円程度で飲み物を提供し『コラボ』以外は運営費に充当している。1日の利

用者は『エフエー』『街角』は30人『コラボ』は50人程度である。

利用者へのアンケート調査の結果、3事業所ともに女性の利用割合が多い。『コラボ』は駅前、複合施設内という立地であり、男性の利用が他の2事例に比べると多い。利用年齢層は65歳以上が65～75%を占め、『エフエー』では85歳以上の利用も25%占める。主な交通手段は、3事業所ともに徒歩がもっとも多い。各コミュニティカフェを知った経緯は「前を通りかかった」「知り合いから聞いた」が多く、立地により割合が異なる。利用者の多くは談話目的の人が多く、駅前、複合施設内の『コラボ』は休憩目的の人も多い。

## IV まとめ

営利を目的としない「地域の縁側」としてのコミュニティカフェは、開設時には行政の果たす役割は重要である。

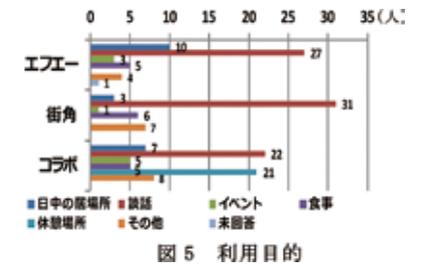
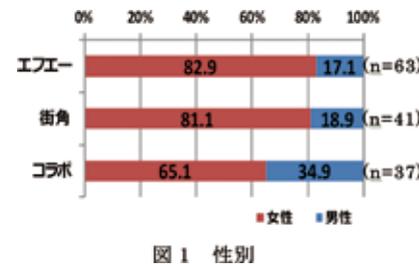
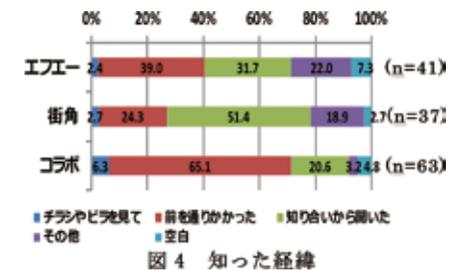
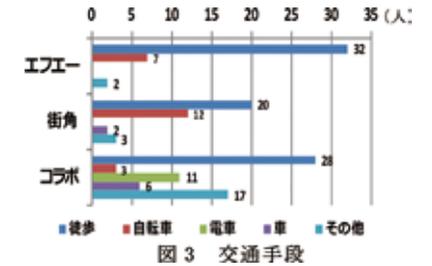
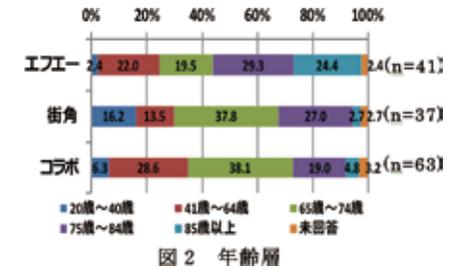
利用者も運営に関わる住民スタッフも高齢者が多く、高齢者の居場所としての役割を果たしている。男性の利用は女性に比べ少ないが、スタッフとしての参加は比較的に見られ、担うべき役割があることが男性には必要かと考える。徒歩圏内にあること、開放的でコミュニティカフェの中が見渡せることなども重要な事柄であると指摘できる。

1) 国土交通省が、全国20の地区を対象に行い、千里東町は2000年に選ばれた。

表1 3事業所の概要

事業所	所在地 立地	運営主体 開設年度	初期費用	ボランティアの人数 (女性:男性) 平均年齢:約70歳
エフエー	阿倍野区 商店街	NPO法人 2007年	物件費1560万 (内、改装費900万) NPOの負担	(24人:14人) 平均年齢:約70歳
街角	豊中市 団地	住民 (実行委員) 2002年	住民負担 なし 光熱水費等 行政負担	(14人:2人) 平均年齢:約70歳
コラボ	豊中市 駅前	住民 (実行委員) 2010年	住民負担 なし 改装費320万 行政負担	(21人:9人) 平均年齢:約60歳

(ボランティアの人数 女性=赤・男性=青)



thesis  
論文

# 寒冷紗カーテンに関する研究

李ゼミ



國松 大志 Taishi Kunimatsu  
西川 夕稀 Yuki Nishikawa

## 【Ⅰ. 研究背景と目的】

「寒冷紗」とは40年以上の歴史を持つ、奈良の地場産業の一つである。寒冷紗は昔から農業用被覆資材や、蚊帳などに使用されてきたが、近年では下水道の普及や、高気密住宅の進化、藪の減少による蚊の減少などにより、利用者が減少していき、衰退してきている。

本研究は、住環境の快適性と省エネルギーを目的として、安価で丈夫な寒冷紗布による寒冷紗カーテンの遮光効果(特に紫外線)の有無と、省エネルギーへの可能性、重ねによる効果、屋根や外壁の色、街並みとの調和などを考慮した配色効果を検討すると同時に、住宅や仮設住宅への寒冷紗カーテンの取り入れと、日覆いとしての寒冷紗カーテンの魅力を広めることを目的とする。

## 【Ⅱ. 研究方法】

### ① 研究試料

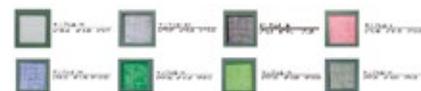


図1 サンプル名称およびL\*a\*b\*表色系の値

### ② 物理的性能の評価

#### 1) 寒冷紗布の色の測定

分光測色計 KONICA MINOLTA CM-700 d

#### 2) 照度の測定

色彩照度 KONICA MINOLTA CL-200

#### 3) 紫外線強度の測定

紫外線強度計 KONICA MINOLTA UM-10

#### 4) 気温と湿度の測定

サーモレコーダー RT-12 エスペミック(株)

#### 5) コンピュータ画像の色の測定

色彩輝度計 KONICA MINOLTA CS-100A

### ③ アンケート調査

従来の無彩色の寒冷紗を除いた、8つの有彩色の寒冷紗をユニットハウスに掛け、被験者101人を対象とし、タブレットPCで試料画像を自由に見てもらい、「どの色のカーテンに魅力を感じるか」を尋ね、最大3つまで回答してもらった。

### ④ 基本感性の抽出

情報社会ともいわれる時代、コンピュータなどの画像によるイメージ伝達として、タブレットPCを用い被験者40人に自由に試料画像を見てもらい、寒冷紗カーテンに関するアンケート調査を行った。図2に示すようにフォトショップCS5を使用し、6つの家と仮設住宅に6つの試料を施し、合計42シーン(7パターン×6試料)を試料画像として用いた。



図2 アンケート調査に用いた試料画像

## 【Ⅲ. 結果と考察】

### ① 紫外線遮蔽効果の結果

いずれのカーテンにおいても、1枚から2枚、3枚と重ね枚数が増すごとに、紫外線強度は急激に低下することが明らかになった。



図3 外線遮蔽率に及ぼすGr1 & Bk&G1カーテンの重ね枚数の影響

### ② アンケート調査結果

#### 1) イメージプロフィール

試料15と17を比べてみると女性の方が外との明度差の差が小さい、明度の高い明るい色のカーテンを好み、男性の方が外壁との明度の差が大きい、明度の低い暗い色のカーテンを好む傾向が見られた。

#### 2) 因子分析結果

第1因子は評価性、第2因子は活動性と名づけた。第1因子から第2因子までの因子寄与率は、56.9%であった。因子付加の正負の関係から、第1因子は正値で評価が高く、

表1 試料バリマックス回転後の因子付加量(全体)

尺度	第1因子	第2因子
センスの悪い	0.848	0.087
感じにくい	0.828	0.016
怪しい	0.823	0.014
不潔な感じがする	0.804	-0.078
やせせていない感じがする	0.803	0.039
臭くない	0.773	0.083
アホらしく感じる	0.756	0.093
ちょっといい感じがする	0.744	0.159
落ち着きがない	0.738	-0.205
好きでない	0.681	-0.084
ほしくなさそう	0.548	0.084
個性が強い	0.482	-0.432
地味な感じがする	-0.422	0.748
怪しい	0.761	0.884
怖い感じがする	0.081	0.578
因子名	評価性	活動性
寄与率	0.48	0.087
累積率(%)	44.9	12.4
累積率(%)	44.9	55.9

第2因子は正値が大きいほど活動的なイメージが高いことを示している。

### 3) イメージマップ

被験者が各試料画像を見たときに生じたと思われる心理因子の中で、どの試料画像がどのような感情を受けたか、各心理因子に対する因子得点の関数に注目した。全体では図5に示すように高評価で、活動性が高く見えるものは試料9、試料27、試料33であり、一方、低評価で活動性が低く見えるものは試料2である。

## 【Ⅳ. 結論】

寒冷紗は目の粗い織物であるが、紫外線強度のカット率は大きく、実用性は高いと考えられる。

仮設住宅に掛ける場合は、無彩色であるGrの試料の評価が低いことから、無彩色のカーテンより、グリーンカーテンに代わる緑系の有彩色のカーテンを掛けることを提案する。



図4 試料15、試料17イメージプロフィール

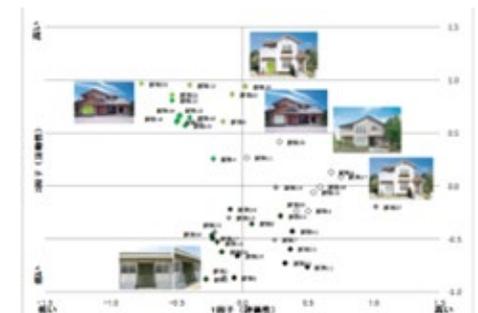


図5 全試料の第1因子(評価性)-第2因子(活動性)空間上の因子得点分布(全体)

# 大学HPにおける情報伝達効果に関する研究 ～TOPページにおける建造物を中心として～

李ゼミ



佐々木 康恵  
Yasue Sasaki

## 1. 研究目的

ネットワークの集合体であるインターネットの中でも、多くの人に情報を伝達するため普及している視覚情報であるHPは、情報収集において多様な効果を発揮することができることからますます多用される傾向にある。視覚情報の中でも、画像情報というのは文字情報よりも素早く詳細に内容を伝達できるため重視されている。

そこで本研究では、大学HPのTOPページに掲載されている視覚情報を例題とし、視覚情報から大学のイメージがどのように伝達されているのかを明らかにするとともに、ネットにおける視覚情報の伝達効果について検討する。

## 2. 研究方法

①予備調査：関西の大学に在籍している男女大学生（18～24歳）にアンケート調査を実施した。

②研究試料の選定と試料画像の測定：関西と関東の大学396校のHPのTOPページに

掲載されている画像の中から51校を選抜、色彩輝度を測定した。

③イメージ伝達効果実験：畿央大学に在籍している男女大学生（19～22歳）にアンケート用紙による実験を実施した。

## 3. 結果と考察

### ①予備調査の結果

予備調査による結果として、志望する大学を知る手段の多くは口コミであり、次に大学のHPによる情報収集が多いことが明らかとなった。また、問5「大学HPのTOPを見て一番印象に残ったものはなんですか」に対する結果として、約半数が写真という回答されていることから、HPにおける視覚情報において画像情報が重要であるということが明らかとなった。

### ②試料画像による実験の結果

51の資料画像を見た場合の32語の感情尺度に対する評価値を男女別に因子分析した結果、男女間で第1因子と第2因子を構成するイメージ用語には大きく異なり、男子

の開放感に位置するイメージ用語は女子にとっては、評価性に値するということが明らかとなった。また、回生間においても同じく第1因子と第2因子間で大きく差が出る結果となった。

数量化I類による要因分析を行った結果、建物の撮り方が因子に大きく影響していることが明らかになった。建物の撮り方において、上から撮られているものはマイナス（個性がない、開放感がない、評価性が低い）に影響することがわかった。建物の撮り方と水と緑の有無により試料画像を見たときに対する感情誘起が大きく左右されるといえる。

## 4. 結論

大学HPのTOPページに用いられる資料画像は、男女間と回生間でイメージ伝達効果に違いがあることが明らかとなり、資料画像の撮り方が大きくイメージを左右する要素であるといえる結果になった。また、本研究の目的であるイメージ伝達効果は、写真情報によっても効果的に伝達されるものであり、「大学」をイメージするにあたって重要な視覚情報であることが明らかになった。

参考文献

- 1) 佐藤昌子・皆川基：写真情報の伝達効果に関する研究
- 2) 稲垣卓三：景観評価に関する研究 p.148 - 156

表3 全体の因子分析結果

感情尺度	第1因子	第2因子	第3因子
明るい-暗い	.772	.231	.167
開放的な-閉鎖的な	.736	.204	.079
広々とした-狭苦しい	.728	.239	.140
暖かい-冷たい	.661	.308	.176
軽やかな-重々しい	.623	.157	.208
現代的な-古典的な	.460	.020	.274
女性的な-男性的な	.376	.315	.283
好きな-嫌いな	.302	.718	.350
センスの良い-センスの悪い	.261	.708	.397
落ち着いたある-落ち着いたない	.126	.666	-.175
親しみやすい-親みにくい	.373	.630	.207
雰囲気伝わる-雰囲気伝わらない	.267	.596	.291
上品な-下品な	.220	.586	.226
知的である-知的でない	.047	.576	.193
派手な-地味な	.296	.265	.636
個性的な-平凡な	.204	.198	.521
因子名	開放感	評価性	個性的
固有値	3.411	3.368	1.486
寄与率 (%)	21.321	21.049	9.285
累積寄与率(%)	21.321	42.370	51.656

表1 予備調査の質問項目

問1	あなたが所属した大学のHPを見たか
問2	入学する前に画像が掲載された大学のHPを見たか
問3	そのHPを見た理由は何ですか
問4	大学のHPを見た回数はいくらですか
問5	大学のHPを見て一番印象に残ったものはなんですか
問6	HPのTOP画像を見たときに大学のイメージが伝わりましたか
問7	大学のHPのTOPページに載っている校内や建物の写真は興味がありますか
問8	大学のHPのTOPページに対して男女別のデザインは興味がありますか
問9	大学のHPのTOPページに載られる開閉式車は興味がありますか
問10	HPの見た回数を見て、一番印象に残ったものはなんですか

表2 実験に用いたイメージ用語

開放的な-閉鎖的な	女性的な-男性的な
明るい-暗い	派手な-地味な
現代的な-古典的な	知的である-知的でない
広々とした-狭苦しい	落ち着いたある-落ち着いたない
暖かい-冷たい	親しみやすい-親みにくい
軽やかな-重々しい	好きな-嫌いな
個性的な-平凡な	センスの良い-センスの悪い
上品な-下品な	雰囲気伝わる-雰囲気伝わらない

# 絵本から学ぶ住環境教育 ～家庭科教育における実践～

齋藤ゼミ



元吉 理奈  
Rina Motoyoshi

## I はじめに

人の生活を表す「衣・食・住」の内「住」は、子どもには身近に感じる事が難しいのではないかと考える。そこで、本研究では「住環境」を扱った絵本を収集し、絵本を使い、家庭科の授業案を提案する。

## II 研究方法

住環境に関する絵本を収集し、題名・著者(経歴)・出版社・出版年・概要を調べ、内容からキーワードに表し分類分けをした。

## III 考察

60冊の絵本を収集し、6つのキーワード(時代による変化・集住生活・他の個性を理解する・家の内部や仕組み・建築家の仕事・建築家たちの視点)に分類し、それぞれの視点から調べた。以下に一例を述べる。

キーワード:「時代による変化」

時代の変化に対応し、住環境が変わっていく絵本を取り上げる。

書名『ちいさいおうち』バージニア・リー・バートン(著)

田舎に建っていた「ちいさいおうち」は、周辺の開発が進み、忙しく人が車や電車で行き来するようになった。都市化で得たもの、失ったものを考えさせる。



図1 四季を楽しんでいる場面



図2 多くの人が時間に追われている場面

表1 収集した絵本の一覧表(一部抜粋)

出版年	1974	2013
題名	家の中をのぞいてごらん	3びきのこぶた建築家のばあい
著者	アネット・チソン/ タラス・テラー	ステイン- グアルナッチャ
概要	まちの建築物の外観が描かれており、フィルムをめくると内観が現われる。	ゲーリー邸、サヴォア邸、落水荘がこぶたの家で描かれる。他にも有名な建築物が多く散りばめられている。
備考(著者経歴等)	夫婦の合作。妻は、元々建築士。夫は生物学や数学の教員。	美術大学の教員。腕時計やカード等のデザインも行っている。

表2 絵本の対象年齢と冊数

対象年齢	冊数	例
幼児	19	100かいだてのいえ おうちをつくらう
小学校 低学年	9	バーバババのいさがし ぼくの庭ができたよ
小学校 高学年	8	まちのやどやのものがたり ル・コルビュジェ建築家の仕事
中学生 高校生	24	つみきのいえ みちの家

また、内容から読者の対象年齢別にも分類した(表2)。

建築家たちが書いた絵本シリーズの対象年齢が中学生以上である為、中高生向けに分類したものが多く。

以上の、紹介した絵本を用いて高等学校の「家庭総合」の授業(2年生を対象)を提案することで本論のまとめとしたい。

## IV. 家庭科授業の提案

1. 題材名 住まいと地域

2. 題材について

① 教材・題材観

日本、そして世界の色々な住まいを知る事により、住まいと気候・風土との関係を理解する事をねらいとする。教材について、絵本を用いる事により、絵と文で生徒の興味・関心を集めたいと考える。特にそれぞれの導入部において効果的だと考える。

② 児童・生徒観

生徒は、興味の持った事柄に対して非常に意欲的に取り組む事ができる。反対に興味の持てない事柄に対しては受身である。よって授業時には導入部の興味、関心をどのように引き付けるか、がもっとも重要であると考えられる。

③ 指導観

生徒たちにとって他国の文化や気候等、経験した事の無い住環境を想像する事はとても難しい。そのため、絵本や写真を用いる事で、視覚的なイメージを持ち、想像力を喚起することを大切にしたいと考える。

3. 本時の展開(展開の一部抜粋して掲載)

学習活動	指導上の留意点
絵本に描かれた建物から、その土地の気候・風土について考える。	描かれた建物からどのような国・気候かを推測させる。次に、解答と工夫された点、使用されている材料・構法について説明する。
「岐阜」合掌づくり 屋根が急勾配(豪雪時の作業軽減・多雨地帯の水はけ) 使用した絵本:『日本の家 北から南まで』	同じ季節でも地域によって異なった材料・造りで過ごしている事を理解させる。
「スイス等の山岳地帯」 シャレー(屋根の傾きを緩やかにし、雪を屋根の上に乗せたままにする。家の外に熱を逃がさないためである。) 使用した絵本:『こんな家にすんでたら』	合掌づくりとの違いを掴ませる。
環境共生住宅の一例として「北米」のわらの家を紹介。 ・設備機器がほとんどなくても屋内は快適な気候・湿度になる。 ・遮音性が高い ・化学物質が原因の病気にならない。 使用した絵本:『わらの家』	授業の前半で学習した地域風土の特性を踏まえながら、それぞれ地域にあった住まいづくりで設備機器に頼らない省エネルギーの住まいが考えられるようにさせる。



図3 授業時に使用したプリント

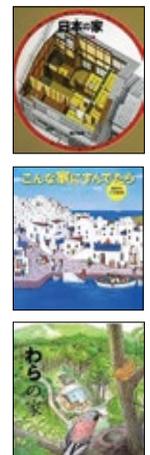


図4 授業時に使用した絵本



畿央大学 健康科学部 人間環境デザイン学科  
**第8回 卒業研究講評会**

全体発表会 2014年2月12日 10:00~16:00  
 選抜発表会 2014年2月13日 12:00~17:00

会場: L101教室

選抜発表者:

石田 友恵 倉本 香菜子 上田 彩乃 大池 智貴 川本 大貴 中田 匠 梶 直子  
 川村 祐太郎 酒井 翔悟 松井 冴季 坂本 在人 阪本 明宏 宮原 真央 田中 智江  
 谷 玲佳 出口 鈴佳 羽瀬 将幸 藤原 由規 松尾 祐香里 三宅 勇輔 以上

17名 12グループ





平成25年度  
**卒業研究**

学長賞

谷 玲佳

優秀賞

酒井 翔悟

松井 冴季

出口 鈴佳

松尾 祐香里

以上 5名4グループ





2013年度  
畿央大学 健康科学部  
人間環境デザイン学科  
**卒業研究・作品展**

会場：奈良県文化会館  
会期：2014年3月1日（土）  
10:00～18:00  
3月2日（日）  
10:00～16:00

たくさんの来場ありがとうございました。



ものづくりは楽しい。

これが卒業制作・論文作品発表会を見ての私の感想です。作品をイメージするところから始まり、アイデアを工夫し、デザインを書き、それを設計図に落とし、製作に入る。試行錯誤を繰り返し、自分のイメージに近づけていく。粘り強く最後まで努力を重ね、作品が仕上がる。自分のイメージ通りに出来上がった作品を見て達成感を味わう。

この一年間、8期生のみなさんはこうした経験を積み重ねてこられたでしょう。長い人生の中であって、一年という時間は短いかもしれませんが、この一年は特別な意味を持った一年だったと思います。これからの長い人生で、きっとこの経験は貴重なものとして皆さんの心の中にいつまでも残ることでしょう。おめでとう。この思い出とともに元気よく社会へ羽ばたいてください。みんなの姿をこれからも見守っていきたいと思っています。

健康科学部長  
金子 章道

諸君、大学4年間の集大成として、満足のできる卒業制作、卒業研究ができたでしょうか。中途半端な作品や研究でおわり、力を発揮できなかった人もいるだろう。しかし、時間を巻き戻して、もう一度やり直すことは誰にもできない。

これからは、社会に出てそれぞれの道で頑張ってほしい。一生懸命考えたことや努力したことは、必ずや君たちの力になる。

明治維新の礎を築いた吉田松陰は塾生に次の言葉をおくっている。

「今日よりぞ 幼心をうち捨てて 人と成りにし 道を踏みかし」

この言葉を、君たちに送りたい。

人間環境デザイン学科 学科長  
三井田 康記

卒研発表会が終わりました。私は主に論文指導を通してゼミ生に関わりました。4月段階ですでにテーマが確定し、取り組んできたはずなのに、ゼミ生が多かったことと私の指導力不足で年明けからの追い込みが大変でした。体力的な不安も感じました。

ひとりひとりの個性と向き合うことができなかったとも反省しています。でも、愚痴を言わず、こつこつと取り組んでいる姿を知っています。口べたで、人にアピールすることは苦手でも分かっている人には分かっています。失敗もしました。でも、学生時代の失敗は宝です。同じ指摘を何度もしました。きちんと残っていることを確信したいです。

これからの長い長い人生において、卒業研究に取り組んだことで、たとえ僅かでも得るものがあればと、願っています。

人間環境デザイン学科 主任  
齋藤 功子

素晴らしい作品も幾つかはありました。

何人かはそれにふさわしい評価を受け、達成感の内に4年間を締めくくれたでしょう。おめでとう。この経験は、君達のこれからの人生の宝になると信じます。勿論、悔し涙に暮れた人もいたと思います。しかし「真央ちゃん」同様、勝敗は時の運です。自信を失わないでください。成功のたった一つの方法は、やり続けることなのですから。

勿論、君たちの作品は「絵空事」です。しかし、「私たちの夢が実現する未来」を思わず「単に今という現実の延長でしかない未来（山本理顕）」に向かって生きるなら、人生は無価値です。明日からは、厳しい現実社会の中で生きてゆく君達ですが、苦しい日々を耐える糧は輝かしい未来への希望なのです。どうか、自分自身・社会・この国・人類・建築の、未来への夢を忘れずに生きてください。

最後になりましたが、諸君の健闘と幸せを祈ります。また会いましょう。

藤井 豊史

今年度は、卒業研究中間発表時の進捗状況に驚きました。締め切りまでに仕上がるのだろうか、本当に心配しました。最終的には、何とか仕上がった人もいれば、やはり時間切れかという人も。全員が全力を出し切っていたら、もっと思い出に残る時間となっていたらと思うと、少し残念に思いました。全て経験です。今後それぞれの人生で、糧としてどう活かしていくか、です。その時々で自分のベストを尽くしていれば、結果は受け入れられるでしょうし、それを受けて反省し、次へのステップとなるでしょう。そうでなければ、反省でなく後悔になりませんか？

さあ、学生を卒業してよいよ社会人ですね。社会のなかで自分をどう磨いていきますか？皆さんのご健勝を母校、畿央大学より応援しています。

東 実千代

今年も卒業作品展が無事に終わり、本当にほっとしています。正直にいいますと、これほど不安な気持ちになった卒業ゼミはありませんでした。前半はなかなかモチベーションが上がらず、どうなることかととても心配しました。少し調子がでてきたところに、私自身の急病で2週間ほどリタイヤせざるをえず、卒ゼミ生はもちろんのこと皆様を随分と不安にさせてしまいました。本当に申し訳ありませんでした。しかし、その事で卒ゼミ生にも自覚が芽生え頑張れた部分もあったかもしれません。結局のところ、最後は自分で考え、自分で結論を出し、自分の手でつくるしかありません。

つらく厳しい制作が続き、苦い味しか残っていない人もいるでしょう。しかし実社会を経験したあとで、あらためて卒業研究を振り返ってみて下さい。当時は苦かったと思っていたものは実は甘い果実であったことにきっと気づくはずですよ。卒業研究とは卒業するための単位ではなく、社会に出てからのビジョンを描くものでもあるのです。

最後に卒ゼミ生に対して締め切り間際に伝えた内容を記します。「時間を厳守することは当たり前です。だからといって自分に妥協して、手を抜いた仕事をしてはいけません。あきらめずに美しいものをつくって下さい。」

加藤 信喜

“神は細部に宿る”という言葉を知っていますか？卒業研究は、粒度の粗いおおよっぱな処理に基づいて、粒度の細やかな細部の処理が行われる、人の情報処理過程そのものであります。この点で、残念ながら、本年度は例年以上に、粒度の粗いところとどまっていると感じます。

粒度の細やかな処理を行ってはじめて、おおよっぱな方向との矛盾が明らかになります。そして、その矛盾を受け入れて葛藤し、七転八倒してこそ、既存の枠組みを突き破れるのだと思います。しかし、本年度の卒業研究は、そこまで至ったようには見えません。

勝った・負けた、評価がどれくらいだった、他の人はどうだ……そんなことよりも、あなたは、この卒業研究を通して、あなた自身の人生の中で、どれくらい、細部を突き詰められたのでしょうか？これを自問自答してください。

日本の神様のほとんどは、崇り神であることをお忘れなきよう。卒業生を見ていると、卒業研究の崇りを、ボクは信じます。

金敷 大之

卒業研究発表会が終わりました。

達成感みなさんそれぞれに違うことと思います。

4月にゼミが決定し研究がスタートすると、私はあなたたちがどんなすばらしい成果を出してくるのかワクワクしていました。

しかし毎日地道に努力しているあなたたちの様子を見てみると、いつの間にか成果ではなく成長が楽しみになってきました。

1年間という時間をかけての研究は、成果をもたらすとともに人を成長させました。

失敗したり、行き詰まったり、色々なことに折り合いをつけて力を注いだ時間はあなたの自信になることでしょう。

人生は「人生は短距離走の連続である」の言葉のように一時一時一生懸命の積み重ねであってほしいと思います。

これからもあなたたちの成長を楽しみにしています。

村田 浩子

今回の卒業制作は、例年に増してスローだったように思います。なかなか、エンジンがかからず、かかってもすぐエンコしてしまうという感じでした。もちろん、早くから頑張っていた人もいました。卒業制作は4年間の集大成であり、とても大変な労力を要する辛い時間でもあります。これを乗り切るには、自分のやりたいテーマ、面白いと思えるテーマでモチベーションを持って臨む必要があります。卒業することだけがモチベーションではないです。一生の内だけでこれだけ長く自分の思いを表現し創作できるという自己実現の欲求を満たせる時間というのは、そうないのではないかと思います。早くからモチベーションをしっかりと持ってやり遂げた人は立派な作品を創ってくれました。きっと達成感に満ち溢れていると思います。思うような評価でなかった人でも、確たるモチベーションを持って努力してきたのであれば、気落ちすることは全くないです。最後まで卒業以外のモチベーションを持ってなかった人は、社会に出てから、自己実現というモチベーションをできるだけ見つけて頑張ってください。

中山 順

畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科8期生の皆さん、4年間大変お疲れ様でした。あっという間に4年の時間が経ちました。入学式と研修旅行から卒業制作・論文と卒業式まで、2組の担任として格別な思い出いっぱいです。卒業研究は畿央大学で4年間学んだことの集大成であり、ひとつのかたちにするまでいろいろと苦労があったかと思います。それぞれ就職活動と同時進行にテーマを決め、調査、実験などを経て一つのかたちに仕上げるまで試行錯誤を経験しながらやり遂げた結果に対する達成感は今やしっかりと身に付いているはずです。苦労したことも楽しかったこともすべて忘れられない素敵な思い出となり、今後社会人の仕事の中でしっかりと活かされるでしょう。自分を信じて前向きに進んでください。担任としていつも陰ながら応援しています。

李 沅貞

4年間学生生活が終わりましたね。長かったですか。一瞬でしたか。私は社会人になってから学生生活があっという間だったことを感じました。それはきっと社会に出ると大学生活が恋しくなるからです。楽しかったこともつらかったことも、そしてがんばった卒業制作もすべて“二度と来ないすばらしい思い出”だからです。みなさんもこの畿央大学で過ごした4年間もかけがえのない毎日だったはず。卒業研究はそれを表すひとつでした。精一杯力を出し切ったという学生は何人くらいいるでしょうか。正直な気持ちを言うと「みんなもっとできるのに！」と思いました。私もふくめて人間環境デザイン学科の先生はみんなに大きな期待を抱きます。みんなよりもあきらめは悪いのです(笑)だからこそ厳しい意見はあたりまえでした。だから最後の発表会も楽しみにしていました。だけど不完全燃焼な気持ちがみんなから伝わってきたのがほんとに残念でした。自分の力なんてこれぐらい…なんて気持ちはこれから持たないでみんな堂々と過ごしてほしいと思います。悩んであたりまえです。あきらめないで。がんばってください。

奥村 亜希

今年の4年生のみんなは、とてもやさしい子たちでした。

下らない話につきあってくれたり、顔を見ると「長井さんやー」と声をかけてくれたり、疲れているときにプレゼントをくれたり、とてもやさしい学年でした。

友人関係でもみんな仲良く、約束を破られても責めたりせず、授業の中でも競争という意識がないようでした。でもそのやさしさが悪く出てしまったのが今回かもしれません。

作業をしている中でどうせできないと思っているのに「明日からちゃんとやろう」、なんとものならないのに「なんとかなるだろう」と自分に言い聞かせていませんでした。

学生のうちはよかったかもしれません。社会に出ればあなたは一人です。

この卒業研究の成果を振り返って、自分なりに「これから」に活かしてくれればと思います。

長井 典子

本学における四年間の学修の集大成として、学生諸君がまとめた卒業研究・制作の成果を、私自身の自己啓発の意味も込めて、今年も閲覧・視聴させてもらった。

学科の性格上、その内容が多彩で広範囲にわたっているが、今年は二次審査に残った十数点の作品の過半が、建築に関するものであったので小職にとっては見ごたえのある発表会であった。

建築が生活の歴史や文化の集積であり、人々によって共有されているものであることを最認識させる提案が多かった。真摯に考え抜き、膨大なリサーチを行い、プロ顔負けの模型から素朴で丁寧な表現まで、各人がそれなりに器用に自分にあった表現法を選択して制作されていた。

都心を走る高速道路の構造体の修景提案など、より豊かな生活環境の創造に向けて、若者らしい多くの可能性を秘めた提案が多かったように思う。

これらの作品に込められた提案が、卒業研究のための一過性のアイディアにとどまることなく、発展的に有効に生かせるようなものに昇華させてくれることを期待する。

岡井 豊治

## 人間環境デザイン学科 教員

### 教授

学 科 長 三井田康記  
主 任 齋藤 功子  
藤井 豊史

### 准教授

東 実千代  
加藤 信喜  
金敷 大之  
中山 順  
村田 浩子

### 講師

李 沅貞

### 特任助教

奥村 亜希  
長井 典子

### 特任講師

岡井 豊治

### 作品集 編集委員

長井 典子  
奥村 亜希

神垣友里奈  
菅野のぞみ  
瀧井 朋子  
中田 冬馬  
堀本 未央  
水ノ上佳希  
六車 拓也  
岩井 涼子  
上田 加奈  
上地 七菜  
岡本 瑞月  
奥村 麻由  
榮 南海  
田中 佑弥  
塚本 利薫  
福原 希  
本山 千恵  
山片 実咲  
山蔦 真子

卒業制作・論文作品集 8

2014年3月19日 発行

発行 畿央大学

健康科学部 人間環境デザイン学科

代表 学長 冬木 智子

〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2

印刷 株式会社 明新社